



「心機一転」

北海道電気技術サービス株式会社
代表取締役 安部 均

夏の終わりも近い8月下旬、当社は長年お世話になり、思い出多い南幌の地を離れ、江別市西野幌の新社屋で営業を開始致しました。これは、隣接する千歳川の堤防拡張工事計画により、敷地の一部が堤防用地にかかることから、昨年より建設を進めていたもので、8月9日に竣工となりました。

新社屋では省資源、CO₂削減に微力ながら貢献しようと、基礎部分には石炭灰を利用したフライアッシュセメントを使用し、また、ヒートポンプによる冷暖房空調機およびエコキュート給湯機を設置、さらに通路照明と屋上看板にはLED電球を採用しています。

社屋竣工後、8月22日の営業開始に向けて、少しずつ引越しを初め、20・21日に多くの社員の協力を得て、事務所の殆どの移転が完了しました。

営業開始以降も、製品や試験機材など多くの備品などが残っておりましたが、試験検査中であった製品を9月5日に出荷し、全ての引越しが無事完了しました。旧工場は、10月末頃までに更地にする予定です。

また、すでにお知らせのとおり、創立40周年というこの記念すべき年に、新社屋にて営業を開始できたことは、偶然ではありますが、当社にとって大変喜ばしい年となりました。あらためてお世話になっている多くの皆様へ深く感謝を申し上げる次第です。

さて、転居など行ったとき、よく使われる言葉のひとつに『心機一転』という言葉があります。お客さまと社屋移転の話題になると、多くの皆様へ「心機一転ですね。」とお言葉を頂きます。辞書によると『心機一転』とは、【ある動機をきっかけとして、すっかり気持ちがよい方向に変わる事。】との事です。また、「立派な社屋になったのだから、これからもさらに立派な仕事をして下さい。」と、激励のお言葉も頂きました。

まさに当社は『心機一転』、お客さまのご期待にお応えしなければなりません。

そのためには、現状に満足せず、日々向上を目指すことが肝要です。

当社は社名のとおり「電気技術」が売りの会社です。創立40年を迎えた今、技術継承は喫緊の課題となっています。先輩は後輩に技術を伝える責任があります。また後輩は、積極的にその技術を吸収し、創意工夫の気持ちや新技術も加えながら、自分のものにして仕事に活用しなければなりません。社是にもある「・・・プロの自覚と認識によって自己研鑽を積み、日常の仕事に生かします。」の一節を、チームワークよく、『心機一転』実践していきましょう。





「ESC江別新工場の期待」

北海道電気技術サービス株式会社

取締役会長 向井 隆

8月、待望の江別工場が完成し本社事務所、工場全てが移転致しました。

旧社屋は5棟の建物に分散され、打ち合わせなど不便な面が有りましたが、1つの建物の中で全員が作業出来るようになり、今後は一層効率的に仕事出来ることを期待しております。

思い返しますと、昭和46年4月に宮ノ森の借家にて2名で発足して以来、早くも40年が経過しました。次は篠路への移転。ここも工場と私の住居が一体で忙しい毎日だったのを覚えております。その後社員も増え、手狭になったため南幌に移転したのは35年前になります。

当初、事務所は軽量プレハブで、歩くと机が揺れるため図面を書くのが難しく「静かに歩け」と毎日言われました。また夏は暑く、冬は寒い建物でした。逐次増築し、床面積は増加したものの、建物は相変わらずプレハブのままで、真冬の2月には屋根が「すがもり（天井からの雨漏り）」し、ありったけのバケツを集めて凌いだのも今となっては思い出のひとつです。平成4年3月に本格的な鉄骨の建物に更新し、やっと事務所と工場らしくなりました。このように、35年親しんだ、本当に思い出の多い工場でした。

工場の位置、建物のほかにこの40年には多くの変化が有りました。大きくはオイルショックであり、それに伴う経済変動で当社もかなりの影響を受けましたが、創業当初から多くの先輩、知人のご指導を頂いて今日を迎えることができました。

現在は御世話になった先輩や、昔の同僚の多くは鬼籍に入り哀惜の念に堪えません。

お客様もそうであるように、弊社でも世代交代をしており、私は来年から後期高齢者の仲間に入ります。今日までご厚誼を頂いた多くの皆様に感謝いっぱいです。今後ともESCをよろしく願い申し上げます。



「比羅夫発電所殿納 水車発電機一体型制御装置」 御立会い、試験

昨年度より日本工営㈱様と共同開発しておりました「比羅夫発電所殿納 水車発電機一体型制御装置」の御立会い試験が、9月21日～22日に当社工場にて行なわれました。

今回納入装置は弊社の従来品と比べて、以下の特徴があります。

- ①盤間信号接続をリンク接続（トリップ信号を除く）とし、現地工事の工数低減を図った。
- ②使用部品に汎用品を採用しコスト低減を図った。
- ③保護回路をハード構成（従来品はシーケンサ処理によるコンパレータRy）とし、シーケンサ停止時においても確実な主機停止が可能な回路構成とした。
- ④各種ユニットに単独機能品を採用し、故障対応・復旧時間の低減を図った。
- ⑤日本工営㈱様と共同開発を行う事により、今後の同型装置の標準化を図った。



一体型制御装置全景

本装置開発においては、納入先である北海道電力㈱様及び日本工営㈱様と何度も打合せや仕様検討を行い、紆余曲折を経てようやく御立会い試験を受ける事ができました。

この間、種々問題も発生しましたが、北海道電力㈱様・日本工営㈱様から多くの御指導・御協力を頂きました。この場をかりて御礼申し上げます。

御立会い試験時には何点かのご指摘事項がありました。

これらに関しては日本工営㈱様と協議しながら対応し、約半年後の運用開始時には、お客様に満足していただける製品を納入したいと思います。

北海道電力㈱水力部発電工事グループ様及び同倶知安水力センター発電課様並びに日本工営㈱様には、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

記：制御システム2課 綿貫 均



御立会い試験時風景

新社屋のご紹介

新社屋の建設工事も無事完了し、2011年8月から新社屋での営業を開始致しました。
一足お先に工場をご案内致します。

3F



展示スペース



応接室



大会議室

3階は会長室、社長室のほか、応接室と大会議室があり、あらゆるお客様やイベントにも対応する準備をしております。
また、来て頂いたお客様に当社の歴史を紹介するべく、展示スペースも用意しております。

屋外



倉庫・機材置場

屋外には倉庫や機材置場、柱上作業訓練柱などを設置しております。



新社屋外観



事務所

2F



開発室

2階には事務所のほか、電子室や開発室など主に基板・ソフト開発やロット製品の生産を行っております。
また、事務所では社員一同が介し、意思伝達や設計作業がしやすい環境となっております。

当社は **江別RTNパーク内** に移転しました！！

◆「RTNパーク」とは

江別RTNパークという名称は、米国で学術研究の開発モデルとして成功したリサーチ (R)・トライアングル (T)・パークに由来しています。

この成功事例を手本とし、江別市が日本の北に位置するためN (north) をつけ、RTNパークとしました。
《江別RTNパークHPより》

新工場は各設備・環境が充実しており、以前よりもさらに仕事に取り組みやすい環境になっております。工場移転により気持ちも新たに、以前に引き続き、今後ともお客様に満足いただけるよう更なる発展・品質向上に尽力します。

現在は事務所や工場等も順調に稼働し、社内も賑やかになっていますので、是非一度足を運んで御覧いただくと幸いです。

社員一同お待ちしております。



30年以上お世話になった
旧社屋ともお別れ・・・
＜南幌工場の今＞



2011年10月13日撮影

1976年5月から35年に渡って活躍してくれました。数々の思い出もあり、名残惜しい社屋ではありますが、その役目を終え、10月末をめぐりに取り壊し工事が完了、更地にする予定です。



電子室



配電盤試験室



CUB製作エリア



配電盤製作エリア



打合せ室



休憩スペース

1F

1階はCUB製作エリアや配電盤試験室といった、比較的大型の装置・盤等の製作試験エリアであり、当社工場の中枢です。

CUB製作エリアには4.8tクレーンも設置され、重量物も安全に運搬可能となっています。



編集後記



暑い暑いと愚痴をこぼしていたのがつい先日だと思っていましたが、もう10月となり朝晩も寒くなって来ました。今年最大のイベントでした新社屋への引っ越しも無事に終わり、いよいよ本格的に多忙なシーズンとなってきました。社員の皆さんのチームワークによりこの季節を無事に乗り切って行きましょう。

チームワークに欠かせないのがコミュニケーションです。「無人の山中で木が倒れた。音はするか。」という問いに対する答えは、ノーだと思います。木が倒れて「音波」は確かに発生するかもしれませんが、それを感じる人がいなければ、「音」はしない。「誰も聞かなければ、音はない。」と言えます。コミュニケーションでも同じことが起きます。話し手は懸命に話すのに内容が伝わらず、相手の理解を得ることもなければ、行動を変えることも出来ない場面はしばしばあります。誰もいないわけではない。しかし、誰かがいても、事実上「誰も聞いていない。」のと同じことが起きます。コミュニケーションは、「この言葉を使って、受け手は内容を理解できるか。」を考えて話すことが大切です。

「私は経営を耳で学んだ。これこそ生きた経営学である。私は学問はないが、「聞学」(もんがく)は習得した。これが何よりの武器なのである。」大和ハウス工業創業者石橋信夫氏の言葉です。せっかくの良いアイデアや提案の内容・価値も相手に解ってもらわなければ何の意味もありません。相手の立場になって、相手が理解できるよう自分の説得力を磨いて行きたいものです。

寒い季節となってきました。風邪など引かぬよう御自愛下さい。よく病(やまい)は気からと言われますが、趣味やスポーツで熱中し楽しんでいるときは、他人から見ればずいぶんと疲れるだろうと思われる場合も、本人はむしろ爽快さを覚えることがあります。

楽しい気持ちは、疲れを疲れと感じないのかもしれませんが。

仕事の場合も熱意を持って打ち込んでいると少々忙しくてもそれほど疲れません。反対に面白くないような気分で仕事をするとう疲れが増えてきて風邪などひいたりします。もちろん度を過ぎると過労となってしまいますが、気持ちだけでも楽しい気持ちで仕事に取り組むことが出来るよう工夫していききたいものです。

記：営業部 鈴木 強



ESC 情報NO. 119 秋季号

発行所 北海道電気技術サービス株式会社

〒069-0832

北海道江別市西野幌120-8

TEL(011)384-8888 FAX(011)384-8889

<http://www.hesc.co.jp> e-mail:hesc@hesc.co.jp

発行者 向井 隆

編集者 営業部

